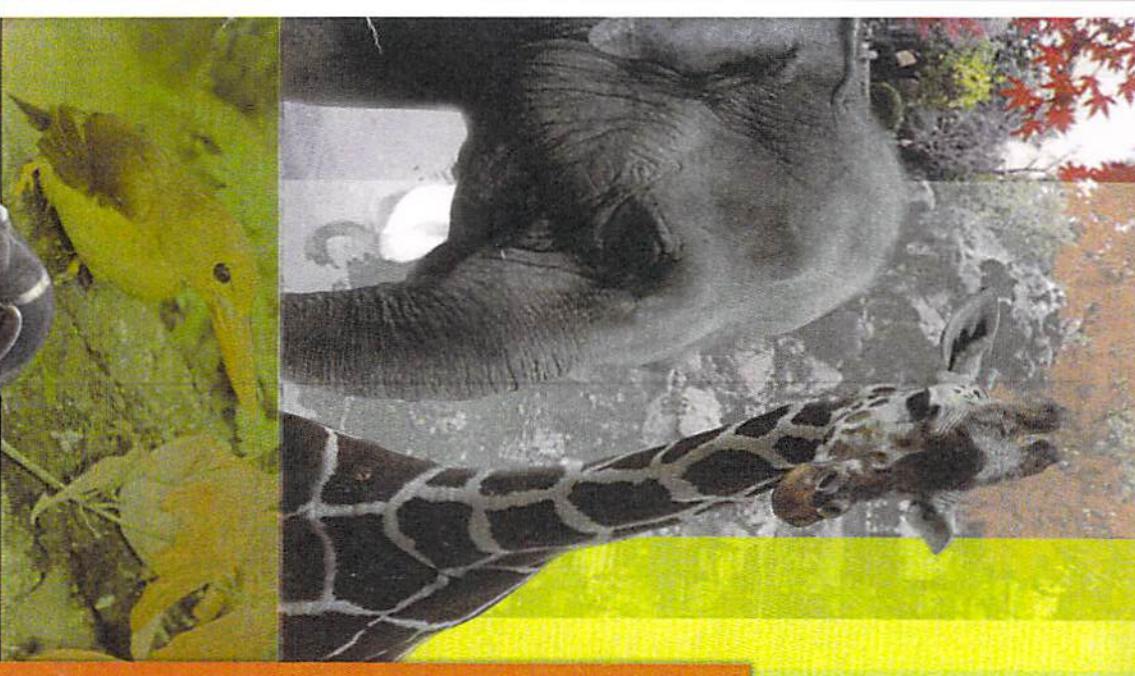




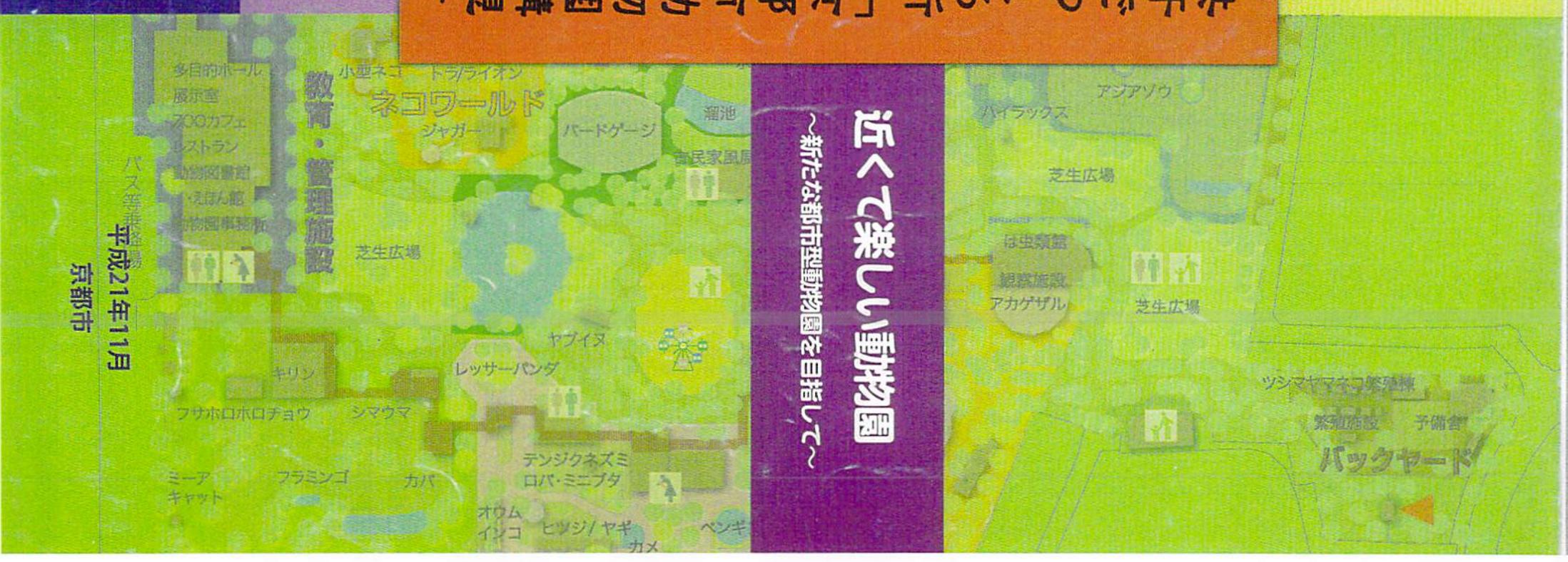
Zoo
Kyoto city zoo
京都動物園



共汗でいくる新「京都都市動物園構想」

近くで楽しい動物園

～新たなる都市型動物園を目指して～



- 「京都市動物園があってよかった」「来てよかった」。訪れるすべての人に、そう思ってもらえる動物園にしよう！そんな熱い思いで、たくさんの市民の皆様と新しい動物園の構想づくりを進めてきました。そしてこの度、動物たちへの深い愛情と新しいアイデアがいっぱいつまつた「共汗でつくる新『京都市動物園構想』」を策定致しました。皆様に自信を持ってお届け致します。
- 京都市動物園は、明治36年（1903年）に、全国で2番目に開園しました。市民の皆様から多額の寄付金が寄せられ、市民の手により誕生した全国初の動物園として、これまで多くの皆様に愛されてきました。
- 本構想は、開園以来100年以上が経過した施設の再整備を機に、更に100年先も愛され続ける動物園を目指そうと、「動物の飼育・展示」、「環境教育」、「種の保存」、「研究」の具体的な方策をまとめたものです。
- 策定に当たっては、市民の皆様をはじめ有識者など多くの皆様と情報や課題、夢や誇りを共有し、まさに共に汗する「共汗」で取り組んで参りました。本年1月には、構想の素案を発表し、3月には「動物園大好き市民会議」を設置。有識者による専門委員会や市民委員によるワークショップ「親子で語ろう！未来の動物園会議」などで、活発に議論していただきました。
- 構想には、未来まちづくり100人委員会の「岡崎ホールディングス」部会からいただいた御提言や、パブリックコメントにお寄せいただいた市民の皆様の御意見も盛り込んでいます。
- また、構想の策定作業を進めていた本年10月には、京都大学と連携して進めている京都市動物園のチンパンジー舎の取組が、NPO法人「市民ZOOネットワーク」主催の「エンリッチメント大賞2009」を受賞するという、うれしいニュースも飛び込んで参りました。
- これは、動物園に研究者が常駐するという国内初の体制のもと、動物たちの環境を第一に考えながらその行動を観察し、お客様にもその姿を御覧いただくという今までにない試みが評価されたものです。本構想を進めいく上で、大きな励みになりました。
- これからも京都市動物園では、都心部の近くに立地する利便性を生かしながら、動物たちの環境を大切につくり、幸福に暮らす動物たちをお客様が間近で見ることができる。そんな「近くで楽しい動物園」を目指して、様々な取組に挑戦して参ります。進化し続ける京都市動物園に御期待ください。

平成21年11月20日
京都市長 門川大作

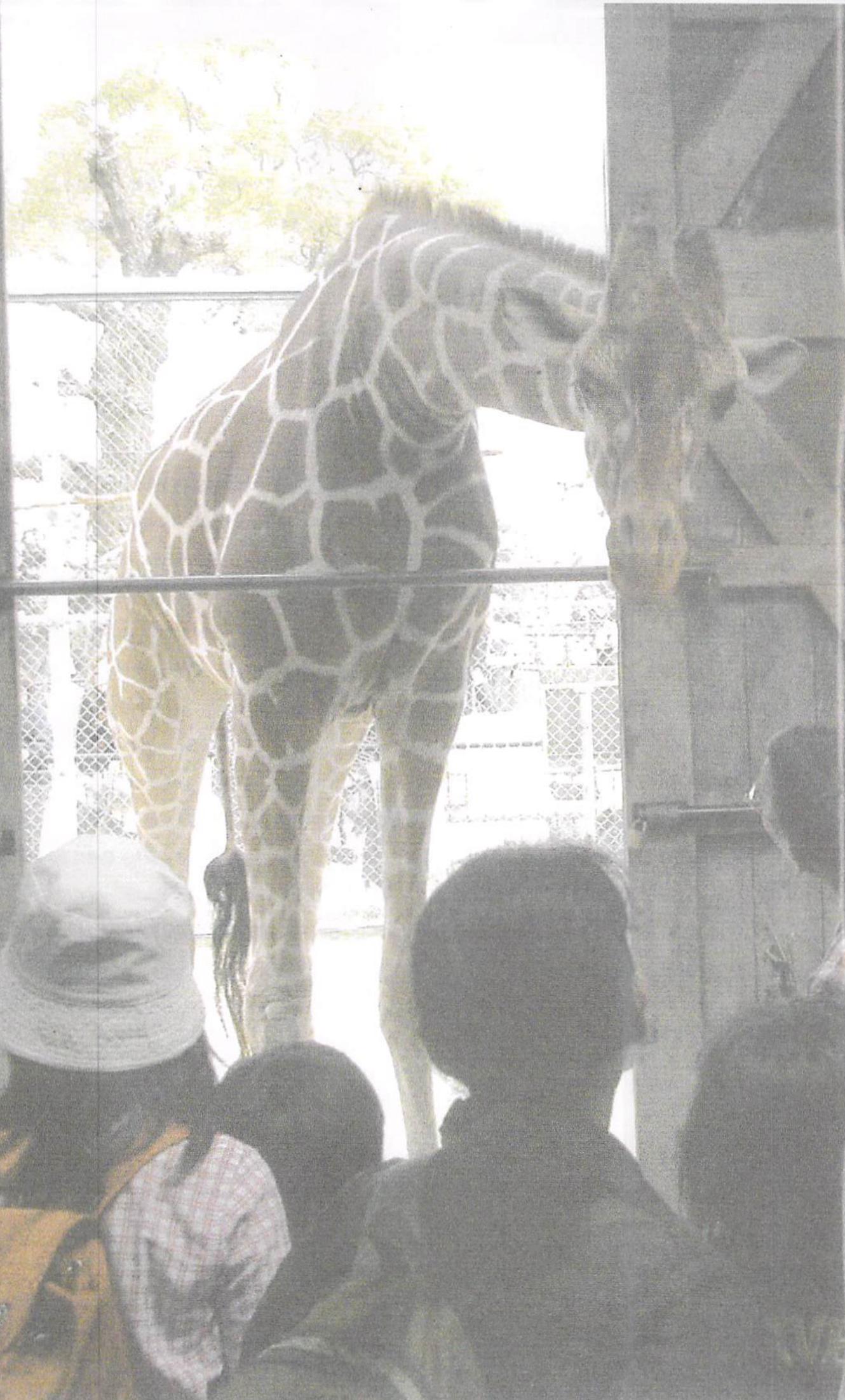


- 近年、「理科ばなれ」という言葉をよく耳にします。その一因は、自然環境の急激な変化にあるのかもしれません。かつて、私たちの周りにはさまざまな動植物がいて、五感を通じてそれらを直接感じることができました。そうした体験は、各人が成長していく過程で、自分を取り巻く環境の理解や、それぞれの人格形成にまでも役立っていたように思います。いまの日本の子どもたちはどれほどどの動植物を知っているでしょうか？子どもたちが人以外の生命について初めて学ぶことができる理科の教科書からは日本固有の種さえ姿を消し、生物の多様性など見る影もありません。言わば、今後彼らが直面する複雑な社会や現象を理解する上で必要な、多様な視点を養う芽は摘み取られつつあるのです。こうした状況の中で、博物館相当施設である動物園が担う役割は重大なものと言わざるを得ないでしょう。
- 動物園は「飼育動物」「動物園で働く人々」「動物園を支える市民」という3つの構成要素で成り立っています。動物が心身共に幸福に暮らせる環境作り、それを多面的に保証する人々の努力、さらにはそれらの全てを支え応援してくれるひとり一人の共汗が必要です。それらが尊重されてこそ、動物園の掲げる「動物の飼育・展示」「環境教育」「種の保全」「研究」という4つの使命が達成されるでしょう。こうしたことを念頭に置き、また京都でしか出会うことのできない動物園を目指して、ここに共汗でつくる新「京都市動物園構想」の最終報告書をまとめました。この報告書が、独創的かつ斬新的な「近くて楽しい動物園」を京都市に実現する礎となることを願っています。
- 本報告書をまとめるにあたり、市民のみなさまからはパブリックコメント等を通じてさまざまのご意見を、また京都市未来まちづくり100人委員会「岡崎ホールディングス」からは貴重なご提言をいただきました。本年3月に設置された「動物園大好き市民会議」の市民委員、及び専門委員会のみなさまには、本構想に関して度重なる活発なご議論をしていただきました。さらに、門川京都市長をはじめとする京都市職員・動物園職員のみなさまには多大なるご尽力をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。
- 共汗でつくる新「京都市動物園構想」の実現に向け、今後もみなさまからのご支援・ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成21年10月23日

「動物園大好き市民会議」専門委員会 座長 伊谷 原一





■ CONTENTS

1 京都市動物園の現状と課題 p.6-11

- p 6 (1)京都市動物園の現状
p 11 (2)課題の整理

2 「近くて楽しい動物園」～新たな都市型動物園を目指して～

- p 12 (1)基本方針
p 13 (2)7つのコンセプト

3 魅力ある展示に向けた施設整備 p.14-16

- p 14 (1)基本方針
p 15 (2)展示コンセプト

4 ゾーンテーマに応じた施設整備 p.17-35

- p 17 ゾーンごとのテーマと施設整備計画進行プラン
p 20 (1)ふれあい広場「おとぎの国」整備事業
p 22 (2)ネコワールド整備事業
p 24 (3)アフリカの草原整備事業
p 26 (4)サルワールド整備事業
p 28 (5)京都の森整備事業
p 30 (6)ゾウの森整備事業
p 32 (7)教育・管理施設整備事業
p 33 (8)利便施設、休憩エリア整備事業
p 35 (9)バックヤード・研究施設整備事業

5 活性化に向けた取組 p.36-42

- p 36 (1)基本方針
p 37 (2)教育プログラムの策定
p 38 (3)市民との共汗でつくる動物園
p 40 (4)サービスの向上
p 42 (5)新たな入園者の開拓

p 45 資料 各種の動物園事業やイベント

1

京都市動物園 の 現状と課題

(1) 京都市動物園の現状

- ア 優れた周辺環境と利便性の高い都市型動物園
- イ 動物に「近い」動物園
- ウ 古い歴史と開園以来の先駆的な取組
- エ 京都大学との連携
- オ 展示施設の老朽化と時代の変化への対応
- カ イベント開催効果による近年の集客増
- キ 事故からの教訓、「安全の確保」
- ク 利便施設の特色のないサービス提供
- ケ ポランティア組織の導入と地域連携の推進
- コ 野生鳥獣救護事業の取組

(2) 課題の整理

- ア 現代の動物園としての課題
- イ 岡崎地域にある動物園としての課題
- ウ 京都市動物園としての課題

1 京都市動物園の現状

ア 優れた周辺環境と利便性の高い都市型動物園



- 琵琶湖疏水と東山の緑、文化施設が溶け合う岡崎地域の文化ゾーンの一角に在り、都心部から至近距離で、地下鉄や市バス等の交通の便に優れている。
- 敷地内の樹木は千本を超え、春の桜、夏の緑陰、秋の紅葉と季節毎の変化を見せるほか、南側には琵琶湖疏水が流れる風光明媚な環境にある。
- 琵琶湖疏水の水は、動物飼育や植物管理等にも利用されている。

イ 動物に「近い」動物園

- 敷地は約4ヘクタールと、大都市にある動物園（表1）に比較して狭いものの、飼育動物は、希少動物を含む165種661点（平成21年3月末）と遜色はない。
- 敷地を狭く感じさせない施設レイアウトや動線設定、狭い敷地に適宜配置された飼育施設により、動物と入園者が「近い」動物園である。

園 館 名	敷地面積(m ²)
京都市動物園	38,765
大阪市天王寺動物園	110,000
神戸市立王子動物園	80,618
東京都恩賜上野動物園	142,898
横浜市立金沢動物園	128,000
名古屋市東山動物園	322,100
札幌市円山動物園	224,780
仙台市八木山動物公園	146,463
広島市安佐動物公園	496,273
福岡市動物園	103,206
到津の森公園（北九州市）	106,000
平均	172,646

表1 大都市動物園の敷地面積比較

ウ 古い歴史と開園以来の先駆的な取組

- 明治36（1903）年4月に、全国で2番目に開園した。市民の寄付金と市費により建設された動物園としては最も古い歴史を持つ。
- 全国で初めてのライオンの人工繁殖の実施や、「ゴリラ」の飼育下三世代繁殖の成功、全国初の動物とふれあえる施設である「おとぎの国」の開設と動物とのふれあいを通じた教育の取組等、先駆的な取組（右年表）を行う。



開設当時のおとぎの国の様子



ライオンとのふれあいの記録

本園の先駆的取組

明治43（1910）	全国初のライオン雄雌各2頭誕生
昭和28（1953）	全国初のトラ雄2頭雌1頭誕生
【昭和30（1955）】	全国初の動物とふれあえる施設「おとぎの国」開設
昭和37（1962）	全国初のシロテナガザル雄1頭誕生
昭和41（1966）	全国初のシュバシコウの人工孵化に成功
昭和42（1967）	全国初のクロエリハクチョウの人工孵化に成功
昭和45（1970）	全国初のニシゴリラ雄1頭誕生
昭和46（1971）	全国初のベニイロフラミングの人工孵化に成功
昭和51（1976）	全国初のヨーロッパバイソン雄1頭誕生 全国初のフロリダニシキヒビの人工孵化に成功
【昭和56（1981）】	京都市動物園ボランティアーズ発足
昭和56（1981）	全国初のオオミズナガドリの人工孵化に成功
昭和57（1982）	ニシゴリラ雄1頭誕生、全国初の飼育下三世代目
昭和59（1984）	全国初のアカシガメの人工孵化に成功
昭和63（1988）	全国初のコフラミングの人工孵化に成功
【平成元（1989）】	10月野生鳥獣救護センター開設
平成2（1990）	全国初のムジヒメシャクケイの人工孵化に成功
平成9（1997）	全国初のコフラミングの人工孵化に成功
平成15（2003）	100周年、収容動物175種721点
平成18（2006）	飼育係3名がNPO法人市民ZOOネットワーク主催のエンリッチメント大賞受賞
平成20（2008）	4月京都大学と野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定を締結

エ 京都大学との連携

- 平成20（2008）年4月、京都大学との間で「野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定」を締結し、京都大学野生動物研究センターの教員が、国内で初めて大学教員として動物園に常駐している。
- 教員は、動物園飼育員と協働して、シロテナガザル、マンドリルを対象にした、「こころ」の進化過程を解明する比較認知科学研究^{*1}や、ニシゴリラ、エゾヒグマ、ダチョウを対象として飼育環境の評価や改善を行うための環境エンリッチメント^{*2}研究を実施している。平成21（2009）年5月からは、チンパンジーを対象に比較認知科学研究が始まった。
- 環境教育への取組としては、研究成果を平易な掲示パネルとして説明を行ったり、アフリカの自然や野生動物の写真を使って現在のアフリカの状況を解説する講演等を行っている。

京都大学と連携して実施している教育プログラム



※ 1 比較認知科学研究

人間のからだと同じく、心的活動の基盤もまた進化の産物であるという視点から、現生の動物種の比較から「こころ」の進化過程を解明しようとしている。具体的には、小型類人猿であるシロテナガザルと、オナガザル科のマンドリル、さらには21年度に新たに飼育を始めた大型類人猿であるチンパンジーと同じ課題で比較し、認知能力の比較をおこなう。現在はアラビア数字の系列記憶の訓練を行っている。シロテナガザル、マンドリルとも、従来の大学や研究室における研究例はほとんどなく、多様な種を保有する動物園だからこそ可能な研究として注目されている。

※ 2 環境エンリッチメント

飼育動物について、その動物の身体的な健康や衛生だけでなく「こころ」も重視されなければならない、心身ともに健全な暮らしがあるという動物福祉の考え方方が根底にある。単純で単調になりがちな飼育環境に工夫を加えて、動物が生活する環境を豊かで充実したものに改善する試みのこと。具体的には環境面に問題があると起こるとされている、さまざまな異常行動の測定、抑止のための対策、対策の評価を行う。

動物舎 建築年度

ゾウ舎	大正12
カバ舎	昭和2
クマ舎	昭和25
ヤブイヌ舎	昭和26
キリン舎	昭和28
ラマ舎	昭和28
アシカ池	昭和29
おとぎの国	昭和30
ヒグマ舎	昭和30
ホッキョクグマ舎	昭和33
ペンギン舎	昭和41
フラミンゴ舎	昭和41
走鳥類舎	昭和44
シマウマ舎	昭和48
は虫類館	昭和49
バク舎	昭和54
レッサーパンダ舎	昭和55
猛禽舎	昭和56

表2 京都市動物園の主な施設と建築年数

才 展示施設の老朽化と時代の変化への対応

- 施設の多くは老朽化(表2)や経年による陳腐化が進み、近年では多様な展示手法が全国で展開されるなか、時代遅れの印象を与えている。
- 圏路は、ほとんどが未舗装であり、車椅子の方などが利用困難な場所がある。

老朽化したヤブイヌ舎

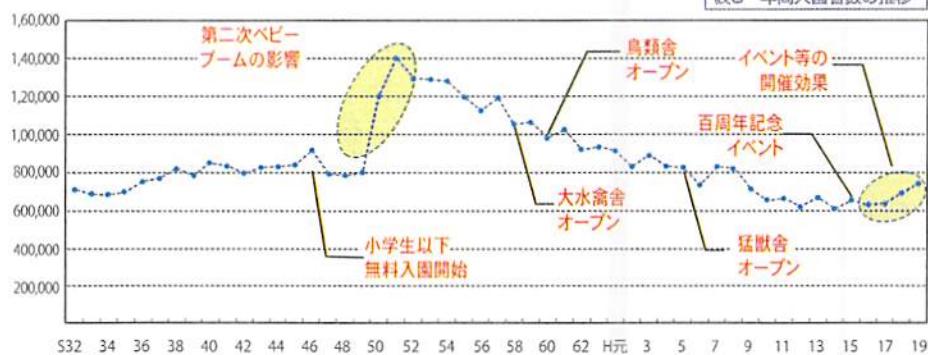


力 イベント開催効果による近年の集客増

- 昭和46(1971)～49(1974)年にかけての第二次ベビーブームの影響により、昭和50(1975)～52(1977)年にかけて入園者数は飛躍的に増加し、昭和52(1977)年には年間約140万人を記録したが、その後は、少子化現象やレジャーの多様化等の影響を受け、入園者数は徐々に減少傾向に転じた。
- 近年は、全国的な動物園ブームの追い風を受けるとともに、各種の動物園事業やイベント等に工夫を凝らした結果、平成19(2007)年度の入園者数は、平成9(1997)年度以来10年ぶりに、70万台に回復した。(表3)

※各種の動物園事業やイベント(巻末 資料)参照

表3 年間入園者数の推移



飼育員が考案したデザインによるイベント
「動物のお面づくり」



動物の耳に注目してもらうためのイベント「動物のみみをつくってみよう！」





ゾウさんとなかよし



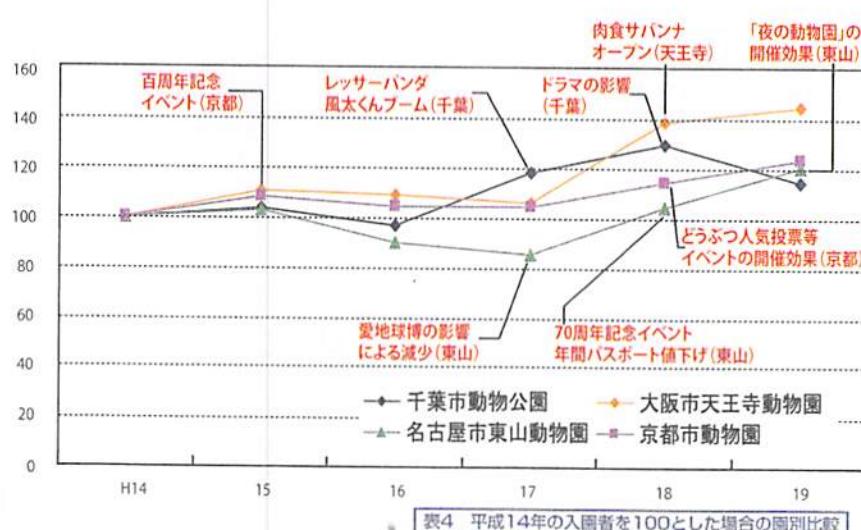
ヘビさんとなかよし



ゴリラの飼育環境を豊かにする取組「ゴリラのお庭に木を植えよう!」

■他の動物園では、人気動物のマスコミへの露出、大規模な施設改修や大規模イベントの開催により入園者数を増やしてきたのに対し、地道な投資とイベントや事業の開催効果により入園者数の増加に成果をあげてきている。

■平成20（2008）年7月から、リピーターを確保するため、年間入園券「Zoo ～っとバス」の販売を開始した。（表4）

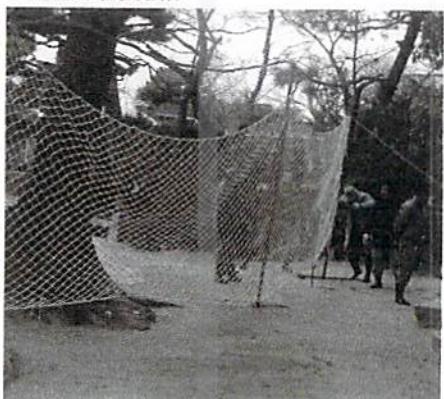


飼育員がイラストを描き、デザインした年間入園券

牛 事故からの教訓、「安全の確保」

■平成20（2008）年6月に発生した動物飼育員死亡事故を教訓に、新たに安全管理担当者を新設し、作業手順の抜本的見直しや、全国の動物園で初めて、動物舎内で不慮の事故が発生した場合に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」の導入、入園者の安全に万全を期すための人止め柵や窓パイプ等の増改修等、入園者と職員の安全対策を進めている。

動物脱出時対応訓練



利便施設 建築年度

ゾウ舎 横食堂	昭和12
ゾウ舎 横売店	昭和12
小獣舎 横食堂	昭和12
小獣舎 横売店	昭和19
アシカ池 南売店	昭和30

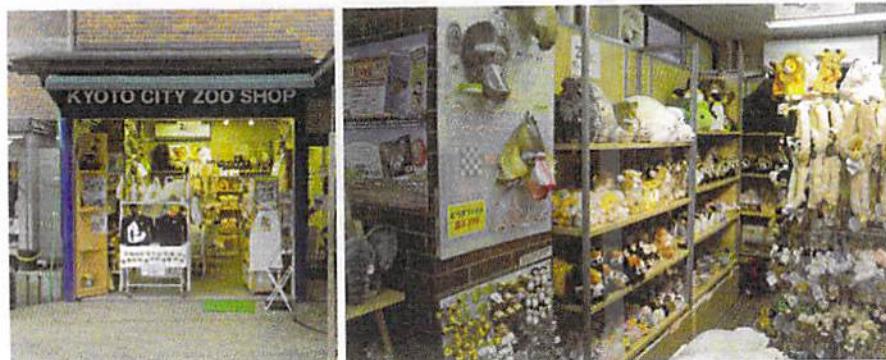
表5 老朽化した利便施設



イベント 鳴き声カルタ

ク 利便施設の特色のないサービス提供

- 利便施設である食堂、売店等は7店舗あるが、多くの施設が老朽化（表5）し、加えて、食堂のメニュー、販売グッズ、おもちゃ類にはこれといった特徴がない。
- 平成21（2009）年3月にNPO法人京都自然動物協会（現京都市動物園ふみりー）がオフィシャルショップを開設し、オリジナルグッズの開発を進めている。



ケ ボランティア組織の導入と地域連携の推進

- 「おとぎの国」を拠点として教育活動に取り組むボランティア組織、「京都市動物園ボランティアーズ」が、昭和56（1981）年に発足した。動物園におけるボランティア組織としては、上野動物園に次ぐ歴史がある。
 - 平成18（2006）年には、京都市立岡崎中学校の生きる力の育成を目指す「総合的な学習の時間」で、冬にアカゲザルに温泉をプレゼントしたいという生徒たちの提案を受け、地元企業や公衆浴場組合などの御協力で「サル温泉」が実現した。
- 「サル温泉」は、動物園が地元の学校と地元企業の仲立ちをし、動物園での地域連携を実現するという新しい取組である。



救護 ホンドタヌキの治療

コ 野生鳥獣救護事業の取組

- 京都府と協力して、京都市域の傷ついた野生の鳥類とほ乳類の救護活動を行い、自然保護の思想の啓発と地域の野生動物の保全に努めてきた。
- 平成元年（1989）には、活動の拠点となる野生鳥獣救護センターを設置した。
- 平成20（2008）年度末までに鳥類16,433羽、ほ乳類1,168頭が持ち込まれ、そのうち約39%を自然復帰させた。
- 救護活動を通して、地域環境や野生動物との関わりについて啓発活動を進めている。

2 課題の整理

ア 現代の動物園としての課題

- 「いのちにふれる憩いの場」，「種の保存等自然保護への貢献」，「環境教育」，「研究」といった現代の動物園に求められる使命を十分に果たすことができる環境づくり
- 現代の動物園にふさわしい，環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への改修，自然エネルギーの導入，雨水再利用等の推進



イ 岡崎地域にある動物園としての課題

- 岡崎地域の文化ゾーンの一角を担う動物園にふさわしい，周辺景観との馴染への配慮と周辺環境への貢献
- 岡崎地域の「にぎわい」に向けた地域連携の推進
- 公共施設としてのユニバーサルデザイン化の推進



ウ 京都市動物園としての課題

- 敷地の狭さを感じさせない施設レイアウトや動線設定，動物と入園者が「近い」という現在の特色の継承
- 京都大学との連携を十分に機能させ，伝統を活かしながらも新進気鋭を好む京都にある動物園として「飼育」，「展示」，「教育」，「研究」における，先駆的な取組の継続
- 動物園事業やイベント開催による集客実績を踏まえ，これらの質的な充実及び継続的な開催
- 平成20（2008）年6月の飼育員の死亡事故の教訓を風化させない，安全確保の努力の継続
- 京都市動物園の魅力度向上のための，利便施設におけるオリジナルメニュー，グッズの開発等顧客満足度（CS）の向上



2

「近くて楽しい 動物園」 ～新たな 都市型動物園を 目指して～

(1) 基本方針

- ア 現在地での再整備
- イ 人も動物も楽しい新たな都市型動物園
- ウ 教育プログラムやサービス
(ソフト)の向上

(2) 7つのコンセプト

- ア 「近く」で動物たちの大きさやにおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園
- イ 全ての人に優しい動物園
- ウ 環境に優しい動物園
- エ 楽しく学べる動物園
- オ 安全で安心な動物園
- カ 市民との共汗でつくる動物園
- キ 「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした動物園

1 基本方針

ア

現在地での再整備

琵琶湖疏水の豊かな水源と自然環境の良さなどに鑑み、現在地での再整備

イ

人も動物も楽しい 新たな都市型動物園

交通の便の良い立地や環境の長所を活かし、限られた面積を最大限に活用することで、動物が入園者に近いという本園の特色、魅力を打ち出し、人も動物も楽しい新たな都市型動物園を目指す

ウ

教育プログラムやサービス (ソフト) の向上

施設整備の効果による入園者増を一時的なブームに終らせないよう、教育プログラムやサービス向上等のソフト充実を推進し、ハード整備とソフト充実の相乗効果でリピーター等の確保、集客の推進

2 7つのコンセプト

「近く」で動物たちの大きさやおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園 ①

- 動物が入園者に「近い」という特色を生かし、五感を刺激し、より動物を身近に感じ、その姿や行動、能力を実感し、野生動物の生息地に思いを馳せる、こうした感性と想像力を育むとともに、「自然」、「いのち」、「こころ」、「人間」について考える場の提供

全ての人に優しい動物園 ②

- 段差のない園路や授乳室など、お年寄りやハンディキャップのある方、子育て世代にも配慮した設備を備え、全ての入園者が快適に利用できる施設への転換

環境に優しい動物園 ③

- いのちの大切さや環境保全の重要性を伝える場としての動物園にふさわしい、環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への建替え、動物舎暖房への自然エネルギーの導入、雨水利用、動物糞の堆肥化、地元間伐材の利用等木のぬくもりが感じられる施設整備の推進

楽しく学べる動物園 ④

- 動物たちとふれあい、また身近に観察できることを通じて、楽しみながら生物の多様性
かいのちの尊さまでを学習できる場の提供
- 常駐する京都大学教員の最新の研究結果を、即座に体感できる場の提供

安全で安心な動物園 ⑤

- 入園者の皆様に緊急情報を正しく伝えるための園内放送設備の改善
- 緊急・異常事態にいち早く通報できる、全国の動物園で初めての動物舎内の不慮の事故発生時に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」を園内27箇所に設置

市民との共汗でつくる動物園 ⑥

- 地域住民や市民グループ、ボランティアの方々との共汗による動物園運営

「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を 大切にした動物園 ⑦

- 子どもにも人気のあるレストランメニューや思い出に残るオリジナルグッズの開発、市民（顧客）ニーズに合った商品販売の促進とリピーター確保

3

魅力ある 展示に向けた 施設整備

(1) 基本方針

- ア 整備の方法
- イ 繁殖可能な飼育環境の整備
- ウ 研究機関等の活動拠点の整備
- エ 京都らしいサービス供給が可能となる施設の整備

(2) 展示コンセプト

- ア 環境エンリッチメントに配慮した展示
- イ 動物を間近で観察できる展示
- ウ 野生動物の保全につながる展示
- エ 動物の知性を実感できる展示
- オ ヒトと動物の関係について学べる展示



1 基本方針

ア 整備の方法

- 施設整備に当たっては、開園しながら段階的に整備する。
- 施設整備の対象は、「ヒトと動物」の安全面から見直し、安全面で課題のある施設や老朽化が進んだ施設を優先し、平成21年度から27年度の7年間で行う。
- 第1の整備は、南側琵琶湖疏水側中央部分の遊休空間を利用し、ふれあい広場「おとぎの国」とする。
- 整備の過程で市民ニーズの変化や、飼育、展示技術の進展も予想されるので、整備計画は一定期間毎に見直しを行い、整備計画の見直しは、市民の意見を取り入れながら実施する。

イ 繁殖可能な飼育環境の整備

- 飼育動物については飼育実績を継承するが、環境エンリッチメントに配慮し、飼育種の選定や飼育スペースの拡充を図り、種の保存に向けて繁殖可能な施設環境の整備を推進する。

ウ 研究機関等の活動拠点の整備

- 野生動物の保全や動物行動の理解を目的とした研究について、京都大学をはじめ研究機関の活動拠点としての機能を果たすことのできる環境整備を行う。

エ 京都らしいサービス供給が可能となる施設の整備

- 「京都らしさ」と「味」にこだわった動物園ならではのメニューが提供できる飲食店等、特色のあるサービスが供給可能な利便施設の整備を行う。



2 展示コンセプト

ア 環境エンリッチメントに配慮した展示

- 動物福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を提供するとともに、なぜそのような環境が必要なのかを理解できる展示とする。

イ 動物を間近で観察できる展示

- 動物の大きさやおいし、鳴き声など五感を実感し、いのちが感じられる場を提供する。
- 動物の指や目などの形態や特徴、行動様式を間近で観察することで、「種」や「社会的な行動」の違いを学ぶ場を提供する。

ウ 野生動物の保全につながる展示

- 絶滅の恐れのある動物についての現状を紹介し、野生動物の保全の取組の重要性を学ぶ場を提供する。
- 京都の多様な自然環境を学ぶ、体験の場を提供する。
- 京都の自然環境に関する情報を提供し、野生鳥獣の救護活動や自然環境の保全の重要性を紹介する。



類人猿舎学習室で数字の序列を学習するチンパンジー



イチモンジタナゴの保全繁殖に向けた二枚貝の飼育実験



※ 1 京都大学での比較認知科学の研究

京都大学靈長類研究所でチンパンジーの知性を総合的に研究する「アイ・プロジェクト」が30年にわたって継続的に行われている。同研究所は、国内で初めて、チンパンジーの放飼場に自然の植栽を定着させたり、15mの高さの構築物を作りチンパンジーの躍動感あふれる運動を再現したりと、環境エンリッチメントでも国内の類人猿飼育施設をリードしている。

※ 2 サル類やクマ類の給餌装置等の工夫

サル舎のシロテナガザルとフサオマキザル展示施設における給餌装置の工夫は、NPO市民ZOOネットワークが主催の2006年度のエンリッチメント大賞を受賞するなど外部からの評価も高い。エゾヒグマ展示施設においても、給餌時間を延長させる装置の工夫が、2008年度の同賞候補にあげられている。さらにサル舎のシロテナガザルとマンドリル展示施設では、午後に京大教員による認知課題を通じた少量の給餌も行っており、野生では全行動時間の50%といわれる採食時間を延長させる工夫を行っている。



I 動物の知性を実感できる展示

- 京都大学での比較認知科学の研究（※1）を動物舎で行い、課題に取り組むチンパンジーの姿を間近で見ることができるようとする。
- チンパンジーの学習の過程を説明する展示を行い、学習の進展に合わせて随時更新する。
- アジアゾウのトレーニングの様子や比較認知科学の研究を紹介する。
- サル類やクマ類の給餌装置等を工夫し（※2）、動物の飼育環境を充実させるとともに、動物がそれらを操作する学習能力の高さを紹介する。

II ヒトと動物の関係について学べる展示

- 家畜を通して、「ヒトと動物の歴史」を学ぶ場を提供する。
- 動物とのふれあいを通して、「いのちの尊さ」を学ぶ場を提供する。
- アジアゾウの使役動物としての歴史を紹介する。
- 京都にいる野生動物を通して、民話の主人公、狩猟の対象、農作物被害をもたらす害獣など、「動物の様々な側面」を学ぶとともに、野生動物との共生に向けた取組を紹介する。



2 展示コンセプト

ゾーンごとに「テーマ」を設け、野生動物の保全への動機付けとなるような、魅力ある展示を目指す。

ゾーンごとのテーマと施設整備計画進行プラン（案）

ゾーン	テーマ	整備年度
ふれあい広場「おとぎの国」	いのちの尊さ、いのちのつながり	1 21~22 年度
ネコワールド	いろいろな違いを発見しよう	2 22~23 年度
アフリカの草原	からだのつくりをくらべてみよう	
ゾウの森（バク舎）	知性と大きさに感動	2 22~23 年度
教育・管理施設 (医療施設・野生鳥獣救護センター)		
サルワールド (オランウータン舎)	同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い	3 23~24 年度
バックヤード・研究施設		3 23~24 年度
利便施設、休息エリア (東・西・中央休息エリア)		
京都の森	豊かな森を感じてみよう	4 23~25 年度
教育・管理施設（学習施設）		5 23~26 年度
サルワールド（サル島）	同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い	6 24~25 年度
利便施設、休息エリア (正面エントランス)		
ゾウの森	知性と大きさに感動	7 25~27 年度

4

ゾーンテーマに応じた施設整備

- (1) ふれあい広場
「おとぎの国」整備事業
ア 飼育展示動物
イ 飼育展示計画
ウ 施設整備計画
エ 主要な施設

* 項目ア、イ、ウ以下(2)～(6)まで同様

- (2) ネコワールド整備事業
(3) アフリカの草原整備事業
(4) サルワールド整備事業
(5) 京都の森整備事業
(6) ゾウの森整備事業
(7) 教育・管理施設整備事業

- ア 計画概要
イ 施設整備計画
ウ 主な施設

* 項目ア、イ、ウ以下(8)～(9)まで同様

- (8) 利便施設、休息エリア整備事業
(9) バックヤード・研究施設整備事業

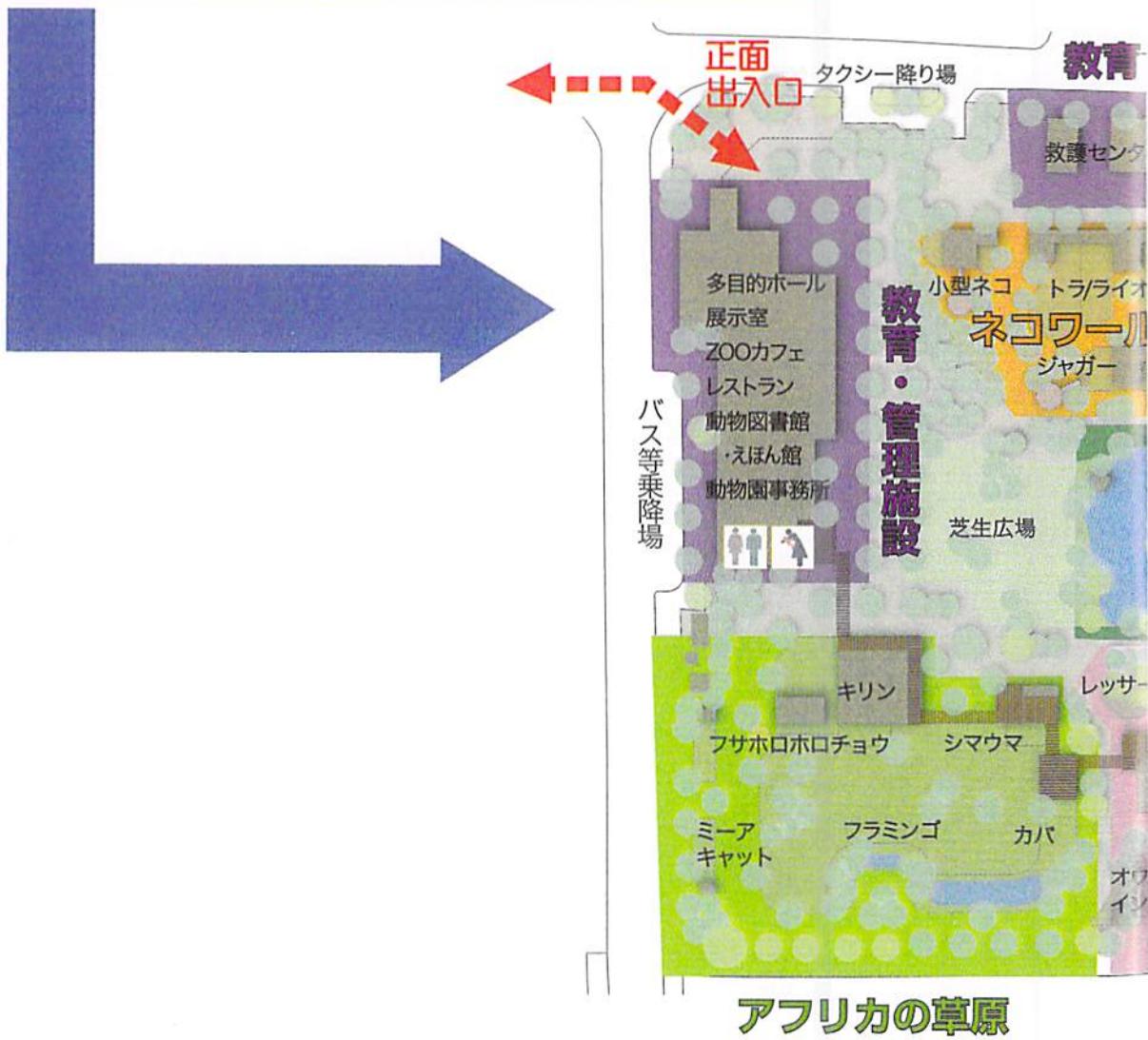
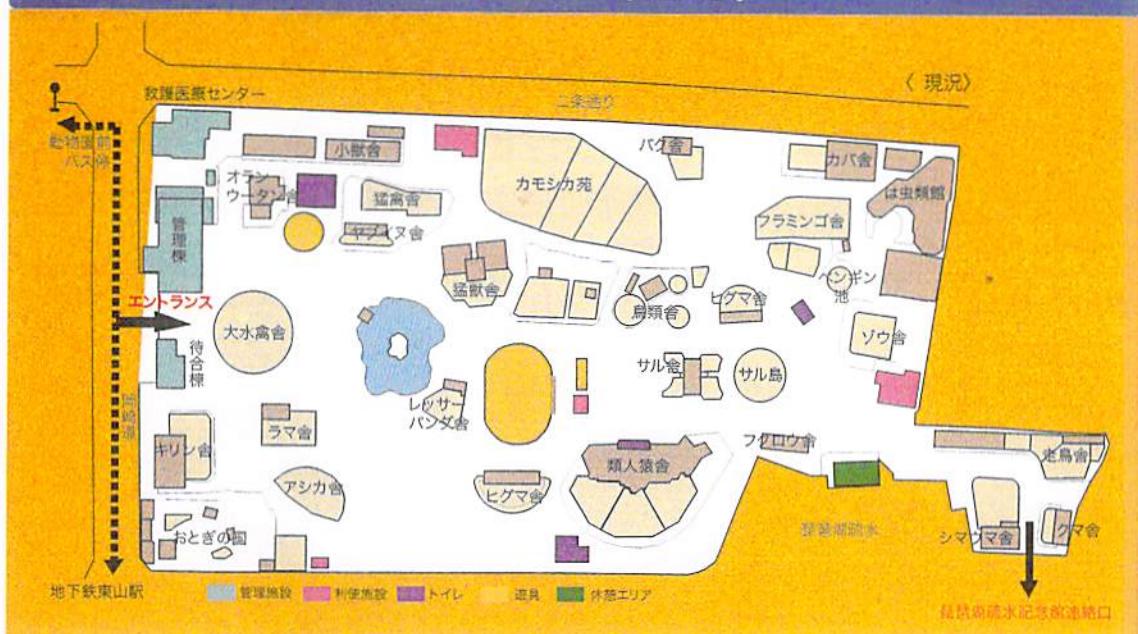
魅力ある展示に向けた施設整備

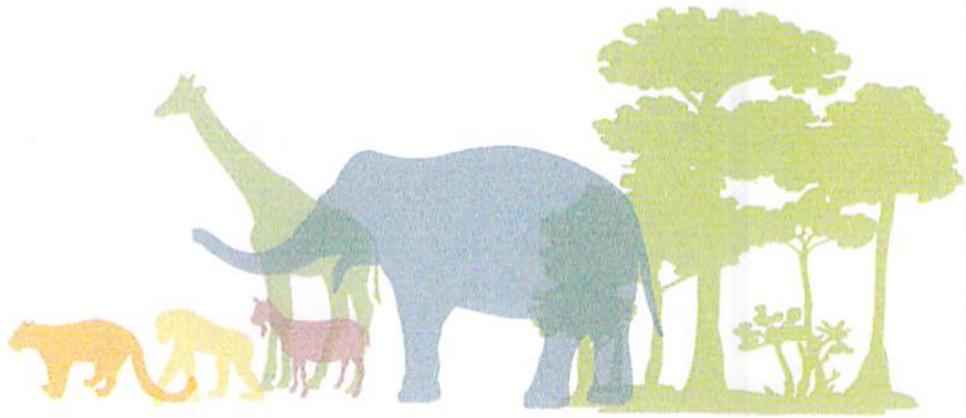
4

ゾーンテーマに応じた施設整備

※整備年度は、「設計」「既存施設去」「新築」に要する期間である。

施設配置図(現況)





新「京都市動物園構想」

Zoo kyoto city zoo
京都市
動物園

- トイレ
- 利便施設
- 授乳室

管理施設

京都の森

ゾウの森

バックヤード

